

第5節 財政基盤の確立を目指して

2004年3月まで国立大学は文部科学省（旧文部省）の組織の一部であったことから、予算について国の様々な規制を受けていたが、国立大学法人法（平成15年法律第112号）が成立し、2004年4月、国立大学は、独立した法人格を持つ国立大学法人に移行（以下「法人化」という。）した。また、法人化に伴い、1964年から続く国立学校特別会計法（昭和39年法律第55号）が廃止された。国立学校特別会計法は、国立学校の予算を特別会計として一般会計と区別して経理を明確にすることで予算を確保し、大学の円滑な運営や施設整備を図ろうとしたものであった。

法人化後は、自らの責任と判断で大学運営が可能になるなどの裁量が与えられ、学長の強いリーダーシップの下、高い自立性を発揮し、質の高い運営が期待されることとなった。各国立大学法人は、学生納付金（授業料、入学金及び検定料をいう。以下同じ。）や附属病院の診療収入等に、国から交付される運営費交付金等を加えた予算を基に、自立的に運営することとなり、弾力的な資金運用や中期目標の達成に向けた戦略的な資源配分などが行えるようになるとともに、新規財源獲得のための国への概算要求の重要度も増すこととなった。

また、決算においては、独立した固有の会計を有し、国立大学法人会計基準に基づいて、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書・業務実施コスト計算書等の財務諸表を事業年度ごとに作成・開示することとなり、社会に対する説明責任が求められる、国立大学法人の重要な業務の1つとなった。

なお、法人化前に行政財産等として利用していた土地や建物は、教育・研究を安定的に実施できるよう国が各国立大学法人へ出資し、設備・備品についても無償で承継された。

以下、千葉大学の財政に関し、予算決算および財産状況の推移について概説する。

第1項 予算および決算の推移

(1) 大学財政の推移

a. 2003年度以前（法人化以前）

国立学校特別会計法により、国立大学の予算は、歳入については、一般会計からの

繰入金および国立学校特別会計歳入としての学生納付金、附属病院収入、積立金からの受入金、学校財産処分収入、寄附金および雑収入等で構成され、歳出は、(項)国立学校、(項)大学病院など項別に、また人件費、施設費、その他の諸費等の用途別に構成されていた。

1999年には、海洋バイオシステム研究センター、2003年には、フロンティアメディカル工学研究開発センター及び環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センターを設置するなど千葉大学は総合大学として着実にその規模を拡大してきた。

この間の歳入・歳出額の推移は、表1-9-5-1aおよび表1-9-5-1bのとおりである。

表1-9-5-1a 千葉大学歳入決算額の推移

項 年度	附属病院収入 (百万円)	授業料及び 入学検定料 (百万円)	学校財産 処分収入 (百万円)	雑収入 (百万円)	一般会計 (百万円)	計 (百万円)	増加指数 (倍)	対前年度 増減比率 (倍)
1997	12,571	7,576	1,940	2,092	—	24,180	1	
1998	12,363	7,714	—	1,630	—	21,708	0.9	0.9
1999	13,824	7,734	—	1,856	—	23,414	0.97	1.08
2000	15,571	7,821	—	1,897	—	25,290	1.05	1.08
2001	15,468	7,954	—	2,076	—	25,499	1.05	1.01
2002	15,871	8,031	—	2,225	0	26,127	1.08	1.02
2003	15,852	8,451	4	2,194	0	26,502	1.1	1.01

表1-9-5-1b 千葉大学歳出決算額の推移

項 年度	国立学校 (百万円)	大学附属 病院 (百万円)	産学連携 等研究費 (百万円)	施設整備 費 (百万円)	改革推進公 共投資施設 整備費 (百万円)	一般会計 (百万円)	計 (百万円)	増加指数 (倍)	対前年度 増減比率 (倍)
1997	24,465	14,816	—	3,259	—	303	42,844	1	
1998	24,149	15,523	514	5,970	—	304	46,463	1.08	1.08
1999	23,767	16,032	627	4,648	—	422	45,499	1.06	0.98
2000	23,761	16,098	748	5,746	—	469	46,823	1.09	1.03
2001	25,080	16,387	720	6,640	—	656	49,484	1.15	1.06
2002	24,570	16,184	1,076	1,881	7,681	653	52,048	1.21	1.05
2003	24,204	16,008	1,044	2,996	2,392	649	47,297	1.1	0.91

b. 2004年度以降（法人化以降）

学生納付金や附属病院収入等の収入を、大学の自己収入として計上できるなど、独立した固有の会計により自らの責任と判断で大学運営が可能になったものの、大学運営資金の基盤的な財源は国からの運営費交付金となっている。しかし、運営費交付金は毎年度諸係数がかけられ、その額が削減される仕組みとなっている。その間、千葉大学は運営基盤を強化するために、外部資金の獲得等により収入を拡大している。

この間の収入・支出額の推移は、表1-9-5-2aおよび表1-9-5-2bのとおりである。

表1-9-5-2a 千葉大学収入決算額の推移

項目 年度	自己収入 (百万円)					外部資金 収入 (百万円)	施設整備 費補助金 (百万円)	目的積立 金取崩 (百万円)	その他 (百万円)	長期借入 金収入 (百万円)	計 (百万円)	増加 指数 (倍)	対前年度 増減比率 (倍)
	運営費 交付金 (百万円)	附属病 院収入	学生 納付金	財産処 分収入	雑収入								
2004	18,206	16,159	8,082	—	191	2,583	711	—	—	498	46,434	1	
2005	17,364	16,886	8,616	—	258	3,068	11,297	74	—	3,297	60,863	1.31	1.31
2006	17,732	17,263	8,433	—	318	3,451	2,173	155	131	4,083	53,742	1.16	0.88
2007	19,044	18,569	8,507	—	461	4,466	1,642	814	123	1,865	55,495	1.2	1.03
2008	18,245	20,490	8,370	—	471	5,439	1,444	719	152	621	55,955	1.21	1.01
2009	18,128	22,017	8,385	—	496	8,163	2,490	1,082	191	2,704	63,663	1.37	1.14
2010	17,853	23,820	8,514	—	423	7,264	2,115	18	193	1,532	61,734	1.33	0.97
2011	18,447	25,584	8,322	—	450	5,804	3,346	427	214	6	62,605	1.35	1.01
2012	17,103	28,433	8,261	—	617	6,387	1,146	337	276	241	62,806	1.35	1
2013	18,242	29,853	7,262	—	578	8,156	4,569	66	296	4,677	73,703	1.59	1.17
2014	18,668	29,596	8,089	193	641	9,584	3,385	1,279	294	3,262	74,995	1.62	1.02
2015	18,332	30,398	8,048	—	581	7,664	203	752	326	670	66,979	1.44	0.89
2016	17,942	31,900	7,963	—	608	7,153	297	272	347	817	67,305	1.45	1
2017	17,738	33,156	7,924	—	774	6,972	796	—	370	1,965	69,699	1.5	1.04
2018	18,088	35,081	7,893	—	885	7,157	840	—	425	4,088	74,460	1.6	1.07
2019	18,337	36,297	7,778	126	1,492	7,444	2,018	—	451	6,256	80,203	1.73	1.08
2020	20,201	35,064	8,092	6,804	715	13,645	2,171	69	410	12,687	99,863	2.15	1.25
2021	20,051	37,215	8,406	—	779	16,816	2,245	96	415	1,560	87,587	1.89	0.88

表1-9-5-2b 千葉大学支出決算額の推移

項目 年度	教育研究経費 (百万円)	診療経費 (百万円)	外部資金 (百万円)	施設整備費 (百万円)	長期借入金 償還金 (百万円)	大学改革支援・学位授与 機構施設費納付金 (百万円)	計 (百万円)	増加 指数 (倍)	対前年度 増減 比率 (倍)
2005	25,347	15,486	2,913	4,549	11,467	—	59,764	1.29	1.29
2006	25,847	15,906	3,315	6,342	1,428	—	52,840	1.14	0.88
2007	27,786	17,080	4,057	3,593	1,465	—	53,984	1.17	1.02
2008	26,809	19,050	5,177	2,151	1,374	—	54,563	1.18	1.01
2009	26,461	21,347	7,678	5,281	1,217	—	61,985	1.34	1.14
2010	22,757	24,446	7,018	3,728	1,156	—	59,107	1.28	0.95
2011	24,320	27,418	5,620	3,434	1,379	—	62,173	1.35	1.05
2012	23,027	29,480	6,127	1,469	1,458	—	61,562	1.33	0.99
2013	23,074	31,187	8,198	9,328	1,461	—	73,249	1.59	1.19
2014	25,136	32,466	9,568	6,729	1,495	92	75,488	1.63	1.03
2015	23,803	32,439	7,443	954	1,519	—	66,159	1.43	0.88
2016	23,688	33,353	6,726	1,168	1,541	—	66,478	1.44	1
2017	23,312	34,277	6,713	2,815	1,470	—	68,589	1.49	1.03
2018	23,375	36,147	7,171	4,981	1,498	—	73,174	1.58	1.07
2019	23,673	36,637	7,139	8,328	1,747	126	77,652	1.68	1.06
2020	24,230	34,780	12,643	14,911	1,933	—	88,498	1.92	1.14
2021	26,559	37,773	12,981	3,858	2,171	—	83,344	1.8	0.94

(2) 国立大学法人会計への転換

法人化については、2000年7月に発足した「国立大学等の独立行政法人化に関する調査検討会議」において、大学改革の一環として、①個性豊かな大学づくりと国際競争力のある研究機関の展開、②国民や社会への説明責任の重視と競争原理の導入、③経営責任の明確化による機動的・戦略的な大学運営の実現の3つの視点から検討が行われ、「新しい「国立大学法人」像について」として2002年3月に最終報告がなされ、2003年7月に国立大学法人法が成立した。

法人化に伴い、大学の会計はこれまでの現金主義会計（国立学校特別会計法）から企業会計の手法を取り入れ、発生主義会計へ転換した。企業会計手法の導入にあたっては、独立行政法人会計基準を参考とし、国立大学の特性に合わせ国立大学法人会計基準が設定され、事業年度毎に業務の運営状況や財政状態を適切に反映した財務諸表を作成・開示することで、国民や社会への説明責任を果たし、同時に業務実績の適正な評価に資する情報を提供している。

財務諸表のうち主な指標の推移は、表1-9-5-3a、表1-9-5-3bおよび表1-9-5-3cのとおりである。

表1-9-5-3a 「経常費用」の推移

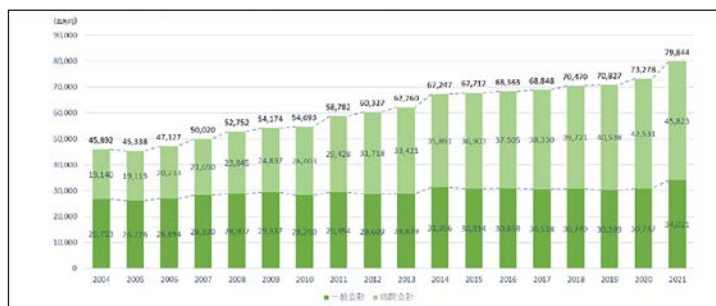


表1-9-5-3b 「経常収益」の推移

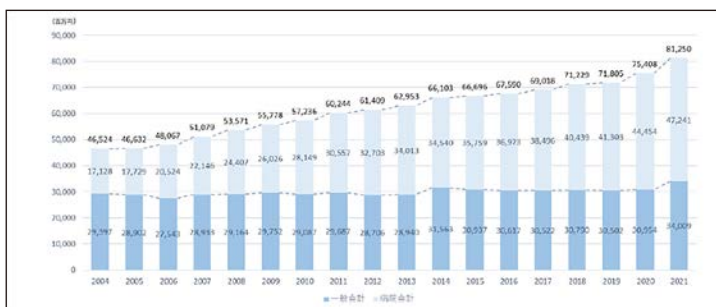
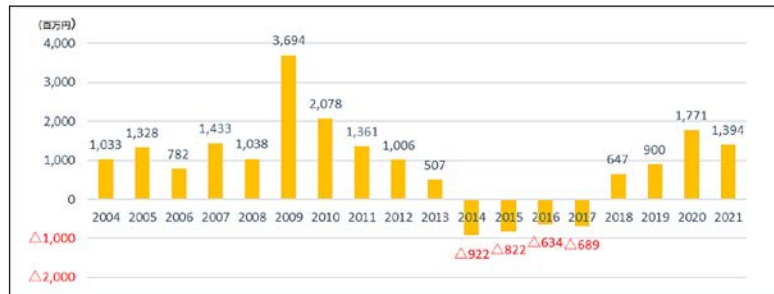


表1-9-5-3c 「当期末処分利益・損失」の推移



第2項 概算要求

国立大学の予算は、法人化前は国立学校特別会計制度のもとで編成され、配分されてきた。文部科学省の施設等機関であった国立大学の予算は、7月に文部科学本省に対して関係書類を提出、文部科学本省によるヒアリング等を経て、8月末には文部科学省から財務省（旧大蔵省）へ予算要求書を提出、文部科学省と財務省の折衝の末に12月末に政府予算案が閣議決定、文部科学本省より各国立大学へ予算案の内示、通常国会での審議の上政府予算が成立すると各国立大学に予算が配分されるという流れであった。

当時、国立大学に係る概算要求は、

- ①基準概算…教員数や学生数、施設面積等一定の基準に基づく既定経費の要求
- ②新規概算…学部・研究科及びセンター等、新規組織・定員に基づく所要額の要求があり、一般的に国立大学における「概算要求」と呼ばれるのは、②についてであり、本学においても、毎年度、要求事項の選定を行い、予算確保の努力を重ねていた。

法人化後においても、特別教育研究経費（プロジェクト経費）、機能強化経費（機能強化促進分）、ミッション実現加速化経費（教育研究組織改革分）と、各中期目標期間に応じて名称の変更等はあったものの、新規組織・定員に基づく所要額の要求を毎年度行うという枠組みは維持され、どのような事項を文部科学省への要求事項とするか、学内部局等の提案を基に執行部でヒアリングを実施した上で事項の選定を実施したり、執行部のトップダウンによる要求事項が決定したりしている。また、並行して、文部科学省への事前相談を実施し、政府方針等を取り込む等して国立大学法人に期待される役割を意識し、本学のミッション実現のため予算獲得の努力を行ってきたところである。

本学における、概算要求事項の選定にあたっては、主に以下のような流れとなっている。

- ①部局へ要求事項の照会
 - ②部局から要求事項の提出
 - ③執行部によるヒアリング実施
 - ④文部科学省へ事前相談
 - ⑤執行部による要求事項の設定
 - ⑥諸会議にて審議、承認
 - ⑦文部科学省へ提出
- ※①～③のほか、執行部のトップダウンによる要求事項の提案もある。

表1-9-5-4a
概算要求 特別経費（プロジェクト分、全国共同利用・共同実施分、教育関係共同実施分）採択実績

(単位:千円)

番号	部局等名	事業名	事業概要	事業期間	計	年度												
						27年度	26年度	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度	20年度	19年度	18年度	17年度	16年度	
1	教育学部	教員養成機能の充実	教員養成の高度化を目指し、現代的教育課題に対応できる「教員養成開発センター」設置への取組みを行う。そのセンターと連携させる形で、国際的視野に立ち教育現場をフィールドにした、研究面で教員養成に貢献できる教育学研究科博士課程計画を具体化する。	H24	22,150					22,150								
2	人文社会科学研究所	人文社会科学系学部・大学院の機能強化に向けた教育研究組織改革プロジェクト	ミッションの再定義の状況を踏まえ、第3期中期目標期間における千葉大学人文社会科学系学部・大学院の人材育成機能強化に向けて、関係諸団体との連携による調査や海外協定校との意見交換等を通じて、国立大学の人文社会科学系学部・大学院が果たすべき役割を明確化し、教育研究組織全体の活性化に資する。	H26	16,368		16,368											
3	医学研究院	医療安全教育のためのクリニカル・スキルズ・センターの設置と運営－医療安全を実践できる医療者の育成を目指して－	医学部、附属病院内にクリニカル・スキルズ・センターを設置し、学内外の学生、研修医、専門医、コメディカルを対象とするシミュレーション教育を組織化、高度化することで医療安全を確保し、患者満足度の高い医療を実践できる医療者を育成する。	H22-H24	136,200				29,700	37,000	69,500							
4	医学研究院	「子どものこころの発達研究センター」による教育研究事業（H27より一般経費化）	「子どものこころのひずみ」への心理学的介入である認知行動療法を実施できる人材を、現場で働く医療職から選抜し、社会人大学院で養成する科学的実践研究を千葉大学では中心に据え、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学の3大学連合での本継続事業に参加し、福井大学と本学を加えた5大学を中心にAll Japanの教育研究体制を構築する。	H23-H27	376,027		75,849	87,243	97,835	115,100								

第1部第9章

(単位:円)

番号	部局等名	事業名	事業概要	事業期間	計	年度												
						27年度	26年度	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度	20年度	19年度	18年度	17年度	16年度	
5	医学研究院	The ToKYoToC Doctor－大学間連携による今日の社会的ニーズに応えられる医師育成とその有用性の検証－※5大学（東京、慶應、横浜市立、東京医科歯科、千葉）連携事業	今日の社会的なニーズに応えられる医師育成のため、本学が2008年度に導入した学習成果基盤型教育（Outcome-based Education, OBE）を首都圏の国公立5大学に拡大し、共通の教育基盤を構築する。各大学の教育リソースを共用することで、教育の普遍性、効率性を高め、高質な大学間連携OBEを実現する。	H24-H26	75,843		23,643	25,600	26,600									
6	医学研究院	「法医学教育研究センター」による人材育成モデル事業－国民の安全・安心に資する魅力ある法医学者の育成を目指して	法医学教育研究センターを設置し、学内外から医師、歯科医師、薬剤師、臨床検査技師等のコメディカルを集め、多面的な視点から死因究明及び虐待等からの生体保護を実施できる人材を育成し、医師及び医師以外の人材にキャリアパスモデルを提供する。これにより、本来国民の権利や安全を守る学問である法医学を具現化し、魅力ある学問とすることで、人材の育成に寄与する。	H26-H30	109,566	57,763	51,803											
7	社会精神保健教育研究センター	社会精神保健教育研究センター事業－司法・精神保健分野の総合的教育研究プロジェクト－	社会精神保健教育研究センターにおいて、大学院との連携のもと、心神喪失者等の重大犯罪の診断、処遇判定、治療・社会復帰、少年の問題行動対策、法システムなど司法精神保健の実務及びその教育を担う人材を育成する。	H17-H21	248,672							46,980	46,980	43,600	56,524	54,588		
8	社会精神保健教育研究センター	司法精神保健における標準化と新技術導入に関する教育研究プロジェクト－社会精神保健教育研究センター事業－(H25より一般経費化)	社会精神保健教育研究センターにおいて、大学院との連携のもと、重大な他害行為を行った精神障害者等の診断、処遇判定、治療・社会復帰、少年の問題行動対策、法システムなど司法精神保健に関する研究を行うとともに、司法精神保健の実務及びその教育を担う人材を育成する。	H22-H27	312,950				92,200	98,000	122,750							
9	予防医学センター	千葉大学予防医学センターを拠点とした地域連携予防医学プロジェクト－健康持続社会の構築－	予防医学研究に総合的に取り組んでいる予防医学センターと住民の健康増進や保健指導等に取り組む自治体が連携し、都市型住民を対象としたコホート研究を推進するとともに、健康増進のための介入手法の検証を行い、予防医学普及による疾患発症の低減をめざす。	H20-H24	94,250				9,000	10,000	24,400	24,400	26,450					
10	フロンティアメディカル工学研究開発センター	医療画像の総合診断システム構築と臨床応用研究創出事業	医療の高度化に伴い臨床現場では経験不足、技量未熟な医師による医療過誤が大きな社会問題となっている。本研究センターでは、このように高度化する医療、特に多様な医療過誤を一元的に管理し医療過誤を低減する研究に取り組んでいる。その一環として複雑な医療技術を取得するためVR（バーチャルリアリティ）を用いた医師のトレーニングシステムを開発している。	H17-H18	2,412										1,190	1,222		

第1部第9章

(単位：円)

番号	部局等名	事業名	事業概要	事業期間	計	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度
11	フロントティアメディカル工学研究開発センター	資源循環型の体腔内外再灌流を基盤とした次世代治療支援システムの構築	排液処理・血液回収機能をもつ体腔内外再灌流装置を基盤とする次世代治療システムを確立し、より低侵襲な外科治療を可能にするとともに災害時の透析療法に備える。	H25-H29	83,238	18,818	25,090	39,330									
12	環境リモートセンシング研究センター	地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリーの形成－人工衛星リモートセンシング－(H23より一般経費化)	地球気候系の診断を行うために、気候・環境研究に関わる他大学付属の研究センターと協力してバーチャルラボラトリーを形成、各センターの特徴と研究資産を活かした研究・教育を行う。	H19-H22	146,400					36,600	36,600	36,600	36,600				
13	環境リモートセンシング研究センター	融合地球環境診断研究プログラム－小型衛星群による大陸規模地殻変動の観測－	千葉大学環境リモートセンシング研究センターは、インドネシア宇宙航空局と共同で、大気物理情報と大陸規模の地殻変動との関係解明用のGNSS掩蔽(GNSS-RO)センサと円偏波合成開口レーダ(CP-SAR)センサ搭載の小型衛星群(2機)を開発する。	H25-H28	77,392	5,320	7,600	64,472									
14	環境リモートセンシング研究センター	千葉大学環境リモートセンシング研究センター共同利用・共同研究の推進	千葉大学環境リモートセンシング研究センター(CEReS)では、リモートセンシングによる環境研究の発展のため、CEReSの施設・設備や受信・収集した衛星データを有効に利用し、大学、その他の研究機関に所属する研究者と当センターの研究者が協力して共同利用・共同研究を推進する。	H22-H27	31,292	5,100	5,116	5,134	5,134	5,404	5,404						
15	環境リモートセンシング研究センター	東アジアにおける大気パラメータの長期変動観測ネットワークの推進と高信頼データによる共同研究	衛星データからモデルを使って地表面放射収支や大気パラメータの長期変動を求めるとき、その正しさを検証するため、東アジア(中国、モンゴル、タイなど)に観測サイトを設置して、現地研究者と共同研究の枠組を構築し、国内の共同利用研究者の協力を得て、観測ネットワークの拠点を形成した。そして、研究者間の迅速な結果の共有と研究の推進を図り、高い信頼度のデータによる共同研究の成果を得る。	H17-H21	14,222						2,840	2,840	2,840	2,840	2,862		
16	真菌医学研究センター	新興真菌症・放射菌症の対策に関する基礎研究	高度病原性、高伝播性、難診断・難治性新興真菌症、放線菌症の症圧を目標にして、真菌症・放線菌症の基礎研究および分子疫学研究を行うと共に、感染症の次世代型研究基盤の整備や情報収集活動、情報の社会還元に貢献することを目指す。	H17-H21	215,807						40,500	40,500	40,500	45,000	49,307		
17	真菌医学研究センター	アスペルギルス症を中心とした新興真菌症制圧プロジェクト	世界的に増加を続け、高い死亡率をもつ新興真菌症は大きな問題となっている。本プロジェクトでは、この中で現在最も深刻であり、更に今後とも一層の増加が予想されている致死的なアスペルギルス症を制圧するため、新しい診断、治療法の開発研究を推進する。	H23-H28	167,695	17,396	24,851	35,502	42,606	47,340							

第1部第9章

(単位：円)

番号	部局等名	事業名	事業概要	事業期間	計	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度
18	真菌医学研究センター	真菌症・放線菌症に起因する難治性疾患に関する共同研究推進事業	真菌・放線菌による難治性疾患研究とその成果による社会貢献を目的に、菌のバイオリソースを共同利用の基盤として整備・活用し、病原菌基礎研究、感染症の診断、治療、予防法研究などを、教育研究施設との共同研究として行い、関連分野の人材を育成する。	H22-H27	51,484	7,715	8,173	8,671	8,671	9,127	9,127							
19	真菌医学研究センター	病原真菌・放線菌とそれら感染症の共同研究推進事業	増加する病原真菌や放線菌による感染症に対して、より安全で安心な社会の構築を目的に、原因菌の解明、それら菌についての菌学的な研究、及び診断法の開発や新しい治療薬の開発研究を全国の教育研究施設との共同研究を通して行う。	H17-H21	26,847						5,360	5,360	5,360	5,360	5,407			
20	理学研究科	未来を築く超原子価ヨウ素の構造と物性、機能材料研究プログラム	密接に関係する研究科との共同研究の下、超原子価ヨウ素の基盤をなす構造と物性を解明するとともに、超原子価ヨウ素を用いた環境調和型有機合成及び関連の基礎研究を推進し、ヨウ素の基礎科学を学問的に確立するとともに、その科学と技術を展開できる人材を育成する。	H22-H26	192,437		25,921	37,031	40,185	42,300	47,000							
21	理学研究科	極高エネルギー宇宙ニュートリノ観測の国際展開	ハドロン宇宙国際研究センターのメインプロジェクトである南極点における8か国国際共同実験IceCube及び将来実験ARAを推進する高エネルギーニュートリノ天文学の日本における基幹研究センターを形成する。多国籍チームにおいてリーダーシップを発揮する若手研究者を輩出する。	H26-H30	28,560	11,760	16,800											
22	融合科学研究科	分式キラリティー研究センター「キララな光」が拓く革新的分子科学	本事業では、「キララフォトニクス」と本学が誇る最先端の化学系・生物系キラリティー研究を統合することで、多彩なナノ物質のキラリティーを自在に制御し、化学・創薬・エレクトロニクスにおいて革新的なイノベーションを創出する。	H27	20,000	20,000												
23	薬学研究院	“FOR SPECT”新規標識プローブの開発による医薬イノベーションの創出	本事業は、薬学研究院を中心に医学研究院や県内研究機関等との共同研究体制により「分子イメージング」技術を“SPECT”を用いて進展させ、「がんの診断や治療」「新薬の創製」の「医薬分野のイノベーション創出」と「創薬研究者の育成」を行う。	H20-H24	383,056				42,300	47,000	72,150	72,150	149,456					
24	看護学研究科	教育－研究－実践をつなぐ組織変革型看護職育成支援プログラムの開発	教育－研究－実践の連携を目指した臨地実習施設の組織変革に取り組む看護職育成支援プログラムを開発する。そのプログラムにより支援を受けた看護職が看護の独自性・専門性を強化し、組織変革を推進することによって、看護の臨床現場の組織問題の解決、看護学教育環境の整備を促進する。	H22-H26	109,517		13,317	17,100	19,000	22,000	38,100							

第1部第9章

(単位：円)

番号	部局等名	事業名	事業概要	事業期間	計	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度
25	看護学研究科	専門職連携能力の高い医療系人材の持続的育成のための基盤強化	患者中心の医療を推進できる医療系人材のコア能力として専門職連携能力育成に焦点をあてる。専門職連携教育 (IPE) に関わる教員、TA、医療等関係職員各々の専門職連携に対する教育力・実践力の開発を目的とした発展プログラムを開発する。	H23-H25	71,865			20,945	24,120	26,800							
26	看護学研究科附属看護実践研究センター	看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進	医療の高度化に伴い、大学化が急速に進展している看護学教育におけるFDマザーマップを開発する。開発したFDマザーマップを大学間で共同活用できる体制を構築することにより、各看護系大学が看護学教育の特質を踏まえた有効なFDを計画的に企画・実施・評価できるよう支援する。	H23-H27	140,021	17,575	19,446	31,200	35,900	35,900							
27	附属病院	遺伝子導入脂肪前駆細胞を用いた新しい酵素、ホルモン補充療法の開発	酵素欠損症に対しては根本的な治療法がなく、現在のところ一部の疾患に対して、欠損酵素蛋白の補充が行われている。しかし、頻回の蛋白投与は、患者のQOLばかりでなく、医療経済的にも大きな問題となっている。そこで欠損酵素ないしホルモン遺伝子を患者本人の脂肪前駆細胞に導入し、移植するという、新しい治療法を開発する。	H22-H25	301,205			28,755	31,950	35,500	66,000	139,000					
28	環境健康フィールド科学センター	植物を多面的に活用する教育研究拠点の構築－植物による安全安心な生活環境の創出－	ストレス軽減効果、予防医学効果等、多面的な植物の機能の研究や、天候に加え汚染土壌や粉じん等の影響から保護できる新たな植物の生産技術の教育を行う、多面的な拠点を構築する。研究では健康植物科学を教育では植物工場技術をキーワードとして取り組む。	H24-H27	109,017	15,566	20,755	26,723	45,973								
29	附属図書館	アカデミック・リンクによる千葉大学の教育改革	千葉大学における教育改革を推進するために「アクティブ・ラーニング・スペース」「ティーチング・ハブ」「コンテンツ・ラボ」の3機能を備えたアカデミック・リンクを構築する。アカデミック・リンクは授業のコンテンツ化を促進するとともに、学内で利用可能な情報資源のより効率的な活用環境を提供することによって教育方法を改善し、同時に「アクティブ・ラーニング」を支援することによって「考える学生」を創造する。	H23-H26	148,328		32,328	40,000	36,000	40,000							
30	アカデミック・リンク・センター	学士課程教育の改革に向けた新たな教学支援システムの構築－「俯瞰し、発見し、実践する」次世代グローバル人材の育成へ－	革新的な学修支援システムの構築、教育資源の作成・共有システムの抜本的改革を通じ、新たな教学支援システムを具現化することにより、千葉大学における学士課程教育の改革を推進し、もってグローバルに活躍できる次世代人材を社会に供給する。	H27	35,500	35,500											

第1部第9章

(単位：円)

番号	部局等名	事業名	事業概要	事業 期間	計	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度	20年度	19年度	18年度	17年度	16年度	
31	地域観光創造センター	地域資源を活用した持続可能な新しい観光創出のための連携融合事業	千葉県と連携して、千葉圏域における文化資源・環境資源を生かした、体験型・地域創成型観光を提案し、地域振興に貢献するとともに地域観光リーダー等育成のため、教育プログラムの展開等による実践的地域連携教育の充実並びに21世紀型観光モデルの提唱・検証を通じて、本学における教育研究を活性化するための連携融合事業である。	H19-H21	80,660							24,280	26,500	29,880				
32	共用機器センター(分析センター)	設備サポートセンター整備	大型分析機器等の遠隔監視とオペレーターによる研究支援を組み合わせた新たな設備利用環境の構築と、それに対応できる研究支援オペレーターの育成を組織的に行う。これによって、機器の有効利用環境を整備し、共同利用の推進及び利用者の拡大を図る。	H24-H26	145,400		38,400	43,000	64,000									
33	先進科学センター	17才飛び入学の整備・拡充と未来の科学者発掘・育成拠点プロジェクト(H23より一般経費化)	「17才飛び入学」を様々な学問分野へ拡大する。このため新たな選抜方法や教育方法の検討とその実施によって飛び入学者の受け入れ体制を総合的に整備する。他大学、高校とのネットワークを拡大整備し情報発信拠点を形成する。また、新規取り組みとして産官学の協力によって高大連携を有機的且つ組織的に実施するモデルシステムを形成し高等教育の高度化基盤を形成する。	H18-H22	288,946						60,186	65,186	65,186	60,186	38,202			
34	学生部	大学院(博士課程)における英語による留学生特別プログラムの開発・実施	「英語」を教育言語・コミュニケーション言語として活用することで、本学独自の博士後期課程専門プログラムと融合し、国際的に発信力のある教育・研究環境を創出し、アジアを中心とした各国からの優秀な留学生を確保し、課程全体の魅力を向上させる。	H20-H22	82,400						31,800	31,800	18,800					
35	学生部	社会人教育支援経費		H21	74,869							74,869						
		合計			4,420,596	212,513	405,400	510,706	673,324	571,471	583,017	563,965	418,672	218,966	149,116	113,386	0	

第1部第9章

表1-9-5-4b

概算要求 機能強化経費【第3期】、ミッション実現加速化経費【第4期】(機能強化促進分【第3期】、教育研究組織改革分【第4期】、全国共同利用・共同実施分、教育関係共同実施分) 採択実績

(単位:千円)

番号	部局等名	事業名	事業概要	事業期間	計							
					R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	30年度	29年度	28年度	
1	グローバルプロミネット研究基幹	グローバルプロミネット研究基幹による卓越研究創出サイクルの確立	学長のリーダーシップの下、本学研究戦略に基づく重点推進分野の強化による国際的卓越研究の持続的創出システムとして構築したグローバルプロミネット研究基幹により適切な研究評価、戦略的研究分野の選定、研究の推進、卓越研究拠点の形成、若手研究者の育成を行い、既存組織の再編成と教員の再配置、革新的イノベーションの創出等の実現を目指す。	H28-R3	1,953,994		328,812	328,812	293,575	416,401	338,419	247,975
2	大学院理学研究院附属ハドロン宇宙国際研究センター	極高エネルギー宇宙ニュートリノ観測の国際展開	南極点に建設されたIceCube及びARA実験はニュートリノ天文学で世界をリードする国際プロジェクトである。日本から唯一参加し大きな実績を挙げた千葉大学グループの優位性を確保し、更なる国際展開と国際性を併せ持つ優秀な研究者の育成を担う。	H28-R3	40,050		8,000	8,000	8,000	7,850	5,200	3,000
3	分子キラリティー研究センター外	キララな光で拓く革新的物質科学の世界拠点構築	キラリティーは物質科学の普遍的な研究テーマである。本プロジェクトでは、キララフォトニクス(キララな光による革新的分子科学)に立脚して革新的キラリティー研究を創出し、エレクトロニクス・生命科学・創薬においてイノベーションを創出する。	H28-R3	38,900		8,000	8,000	6,000	4,000	9,400	3,500
4	フロンティア医工学センター外	マルチモーダル計測医工学ーマルチモーダルイメージングに基づく高度精細局所診断・治療支援技術の実現	様々な計測・撮影装置で、かつ、様々なスケールで生体組織の物性・構造・機能を計測する技術確立し、その結果に対する横断的・階層的解析から生体に対する新しい知見を提示する学術分野の創成を目指すとともに、従来にない高精度な診断・治療に発展させる。	H28-R3	44,584		9,900	9,900	9,900	7,900	3,000	3,984
5	大学院医学研究院 外	粘膜免疫関連疾患の病態解明とその克服	近年増加している炎症性腸疾患や難治性アレルギー疾患は「粘膜」が原因に必須である。最先端の解析技術によって粘膜面の免疫応答を解析する国際的な「粘膜免疫」研究拠点を形成し、研究を推進することで、免疫難治疾患の病態解明、新規治療法の開発を行う。	H28-R3	38,000		7,000	7,000	7,000	8,000	5,000	4,000
6	大学院薬学研究院 外	ファイトケミカル植物分子科学の先鋭化による卓越拠点形成	客観的分析から明らかにした本学の強みである植物分子科学の部局横断型研究ネットワークの構築により、薬用や健康機能を有するファイトケミカルの植物ゲノムでの生成、機能、エンジニアリングを可能とし、更なる国際認知度の向上と次世代研究者育成を行う。	H28-R3	39,700		7,000	7,000	7,000	8,000	6,200	4,500
7	国際教養学部	国際教養学部の設置	トップマネジメントにより学内資源の再配分を実施した上で、国際教養学部を創設し、世界を舞台にした文理混合の課題解決型教育により、実践的かつ社会的なグローバル人材を新たに育成する。また、新たな教育モデルの開発とその全学展開、日本人学生の海外派遣及び留学生の受入れ、さらには教員の国際交流や海外提携校との密接な協力関係の構築といった取組を積極的に推進することを通じて、大学全体の国際化や人材育成機能の強化に貢献する。	H28-R3	419,327		68,010	69,151	58,812	71,160	74,091	78,103
8	アカデミック・リンク・センター	国際未来教育基幹による千葉大学の教育革新のための基盤構築	国際未来教育基幹は全学的な教育革新のための基盤強化の観点から分野横断型で常に先端的な課題に取り組みながら、俯瞰力を鍛える新たな教育システムを構築することを目的として創設された。その下でアカデミック・リンク・センターは教育・学習支援機能を拡充、強化し高度化を図り、深い専門性と俯瞰的思考力を備えグローバルに活躍し次世代研究のシーズを生み出す「知のプロフェッショナル」を育成するための取組を実施する。	H29-R3	432,360		62,350	71,650	153,580	94,920	49,860	

第1部第9章

(単位：千円)

番号	部局等名	事業名	事業概要	事業期間	計	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	30年度	29年度	28年度
9	自然科学系教育研究機構	理工系大学院改組による大学院先進科学プログラムの展開	理工系3大学院(理学、工学、融合科学研究所)を再編・統合して、融合理工学府を設置し、理工俯瞰型人材の育成を加速させる。また、本学の特徴ある教育プログラムの一つである「先進科学プログラム」を大学院教育に拡大し、優秀な学部学生の登用・編入により、分厚いトップ層を大学に実現し、世界水準の次世代型人材を育成する。	H29-R2	106,623			15,020	27,362	30,956	33,285	
10	子どものこころの発達教育研究センター	子どものこころを守る対人援助教育学による世界水準の次世代型人材育成	子どものこころの発達教育研究センターに令和2年度に設置した「対人援助教育学部門」を中心に、次世代を担うChild Firstの観点から、虐待、いじめ、不登校、自殺等の問題を減らす「子どものこころを守る対人援助教育学」を教育学、医学、心理学、法学、政治学、社会福祉学などの領域横断的に展開し、世界水準の次世代型人材(学校の教諭、保育士、医師、カウンセラー、ソーシャルワーカー、弁護士、議員、行政職等)を育成する。	R2-R3	23,440		11,720	11,720				
11	国際未来教育基幹	国際未来教育基幹による全学的教育改革の推進と世界水準の次世代型人材育成	国際未来教育基幹(基幹長:学長)を創設することにより、新しい学長のガバナンスを確立し、教育のグローバルスタンダードへの対応を推進して、教育の国際通用性を高め、国際教養学部の設置、人文社会科学研究所の改組、理工系大学院再編による組織改革、飛び入学・飛び級制度(先進科学プログラム)やアカデミック・リンクの機能強化により世界水準の次世代型人材を育成する。	H29	12,980						12,980	
12	国際未来教育基幹	国際未来教育基幹の再編による全学的教育マネジメント機能の強化とスマート・ラーニングの展開による世界水準の次世代型人材育成	学長によるガバナンス機能を強化するため、企画・立案部門(高等教育研究機構)と実施・評価部門(国際未来教育基幹)を統合・再編し、迅速かつ円滑な全学的教育マネジメント体制を構築する。また、イノベーション教育センターを設置し、ポスト・アクティブ・ラーニングとして海外大学の先進事例を踏まえた最先端学習によるスマート・ラーニングを展開することにより、実践的教育の強化を行い、世界水準の次世代型人材を育成する。	H30-R3	293,096		28,759	34,367	116,390	113,580		
13	予防医学センター	次世代型個別化予防実践人材の育成	疾病になる前を中心とした「予防」を効果的に行うために、千葉大学・金沢大学・長崎大学の3大学が有する強みや特色を、有機的・相乗的に連携させ、0次予防から3次予防までを包括的・縦断的に取り扱う新しい予防医学を構築するとともに、予防医学分野の世界的教育研究拠点の形成を目指す。	H28	174,276							174,276
14	国際未来教育基幹	高等学校と大学が真に接続し「真の学ぶ力」を測る新しい選抜方法の開発・実施	理数教育の充実・向上をめざし実施してきた「高校生理科研究発表会」を活用し、高校生の知識・技能のみならず、思考力や表現力などの「真の学ぶ力」を測る新しい選抜方法を開発・実施するとともに、専門のアドミッション・オフィサーの配置・育成をする。また、千葉大学が主催する「次世代才能スキップアッププログラム」等、高校生を対象に実施する事業での成果を利用するなど、活用範囲の拡大を図る。	H28-R3	109,476		14,983	17,905	20,491	18,827	19,325	17,945
15	アカデミック・リンク・センター	学士課程教育の改革に向けた新たな教学支援システムの構築-「俯瞰し、発見し、実践する」次世代グローバル人材の育成へ-【平成29年度は取組8に合算して要求】	革新的な学修支援システムの構築、教育資源の作成・共有システムの抜本的改革を通じ、新たな教学支援システムを実現することにより、千葉大学における学士課程教育の改革を推進し、もってグローバルに活躍できる次世代人材を社会に供給する。	H28	30,000							30,000

第1部第9章

(単位：千円)

番号	部局等名	事業名	事業概要	事業期間	計								
						R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	30年度	29年度	28年度	
16	大学院医学研究院	多職種連携による次世代型法医学者人材育成 一国民の安全・安心に資する魅力ある法医学者の育成を目標として	死因究明の精度の向上のみならず、死因情報を被虐児等生体の保護にも活用しつつ、多岐分野に渡る専門領域横断型の法医師及びコメディカルを育成することで、新たな魅力ある法医学を創出し、法医の人員不足を解消し、本来あるべき法医学のモデル拠点を形成する。	H28	57,763								57,763
17	グローバルキャンパス推進基幹	グローバル・キャンパス推進基幹の設置とアジア+アセアン・イノベーション創生拠点の整備	本学全ての海外拠点をマネジメントする「グローバル・キャンパス推進基幹」を学長の強いリーダーシップでグローバル戦略に基づき活用する体制を構築する。その下で、バンコク・キャンパスを「アジア+アセアン・イノベーション創生拠点」として専任の教職員を配置することで、多様な教育プログラムを実施し、社会実装型研究を展開することで、グローバル化を牽引する役割を担い、本学のグローバル化の更なる深化を図る。	H30-R3	255,352		37,832	92,271	61,427	63,822			
18	国際戦略本部	世界最高水準の海外教育研究拠点形成による新学術領域の創生とグローバルリーダーの育成	本戦略において、国際化・国際貢献を強力に推進する基盤体制として、各拠点に本学教員と現地教員（クロスポイントメント制度活用）から構成される国際連携教育研究拠点（創生拠点）を設置する。創生拠点においては、日本と現地双方の優れた教育研究システムを融合させた世界最高水準の教育カリキュラムや研究プログラムを開発・実践し、それらの蓄積をベースとしたPDCAサイクルを効率的に展開させることによって、教育研究内容の恒常的な質の改善を図り、成果の継続的かつ安定的な創出へと繋がる、恒常的なシステムとしての組織整備を実施する。	H29	19,970							19,970	
19	未来医療教育研究機構	人工知能(AI)を用いた革新的な治療学の創成	本取組みは、これまでない企業との有機的な共同研究と全学的な実施体制のもと、本学の医学研究院、附属病院等の基礎医学研究ビッグデータと医療ビッグデータを基盤に人工知能(AI)を構築し、実証研究及び臨床現場で実地利用を展開することにより、新学術領域として「AI治療学」を創成し、革新的な基礎研究の実施、精度の高い速やかな診断法の確立、新たな治療法の開発、「AI治療学」を牽引する研究者、技術者など次世代を担う医療人材の育成を推進するものである。	H30-R3	155,596		31,440	31,440	24,520	68,196			
20	未来医療教育研究機構	次世代対応型医療人育成と「治療学」拠点創成のための多鼻キャンパス高機能化構想	国立大学唯一の医療系3学部（医学・薬学・看護学）と附属病院及び医療系研究センターが結集した多鼻キャンパスにおいて、学内資源の再配分により、未来医療教育研究機構を司令塔として、医療イノベーション創出とグローバル化に対応するための教育研究組織改革及びガバナンス改革を強力に加速し、次世代の多様なニーズに応える医療人育成機能強化を果たすとともに、全学に改革を展開する。	H28-R3	603,442		66,278	54,558	56,478	37,300	84,164	304,664	
21	環境リモートセンシング研究センター	新気象衛星データの活用と環境リモートセンシング分野での共同利用・共同研究の推進	リモートセンシングによる環境研究の発展のため、新型気象衛星であるひまわり8号を含む衛星データおよび本センターの施設・設備を有効に利用し、大学等の幅広い分野の研究者と当センターの研究者が協力する形で共同利用・共同研究を推進する。	H28-R3	95,942		14,007	14,007	14,007	14,007	19,957	19,957	
22	環境リモートセンシング研究センター	グローバル環境・災害監視用先端小型衛星リモートセンシング拠点形成	本学の共同利用・共同研究拠点の機能強化に向けて、国内外の研究機関と連携し、本学で開発された無人航空機(UAV)と航空機搭載用の合成開口レーダ(SAR)を基にして、世界初と大学発の小型衛星搭載合成開口レーダ(小型衛星 SAR)を実現し、火山噴火、活断層、土砂崩れ、地震被害地域等の観測にむけて、グローバル環境・災害監視用先端小型衛星リモートセンシング拠点形成を行う。	H28-H30	20,400					6,800	6,800	6,800	

第1部第9章

(単位：千円)

番号	部局等名	事業名	事業概要	事業期間	計							
					R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	30年度	29年度	28年度	
23	真菌医学研究センター	難治性感染症克服のための感染症・免疫研究推進拠点事業	社会構造変化に伴い問題になっている病原真菌などによる難治性感染症について、病原体の基盤研究、宿主の免疫研究、臨床研究を国内外の研究機関との共同研究として実施し、感染症・免疫研究拠点を形成することで、難治性感染症克服を目指す治療学を先導する。	H28-R3	108,192		19,057	19,057	19,057	13,607	18,707	18,707
24	真菌医学研究センター	高齢者・新生児アスペルギルス症制圧へ向けた予防・診断・治療開発プロジェクト	死亡率の高いアスペルギルス症は高齢化、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の増加、耐性菌の急増も加わり危機的な状況にある。また新生児における実態は全く不明である。COPDに併発する本症及び新生児を含めた疫学調査を行い、新規診断法、治療法、予防法の開発を行って本疾患の制圧を目指す。	H28-R3	72,948		10,548	10,942	10,942	10,942	14,787	14,787
25	看護実践・教育・研究共創センター	看護学教育のCQI（継続的質改善）モデル開発と活用推進	各看護系大学が看護系教員の量的・質的確保が困難な中で、少子超高齢多死社会における多様な医療介護提供体制を担い、発展させる看護職の輩出に向けて、教育を革新し質を保証するように、外部支援体制の構築をめざして、CQIモデルの開発と活用推進を行う。	H28-R1	51,710				11,500	11,500	13,558	15,152
26	看護実践・教育・研究共創センター	“Society5.0看護”創出拠点－ピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略－	看護職者のピア・コンサルテーションを通じて、健康支援の質を左右する重要情報を特定し蓄積・活用できるしくみを構築することにより、最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける新たな健康支援方略＝“Society5.0看護”を創出・発信する。	R2-R4	27,969	8,033	9,422	10,514				
27	アカデミック・リンク・センター	教育・学修支援専門職を養成する実践的SDプログラムの開発・運営	「大学教育の質的転換」を推進するため、教育・学修を支援する新たな専門職の能力ルーブリックを開発し、全国の大学職員を対象とした実践的SDプログラムを実施して職員の高度化を図るとともに、教育・学修支援活動の情報拠点としてネットワークを形成する。	H29-R3	72,981		12,282	13,699	15,000	15,000	17,000	
28	国際未来教育基幹	高大接続・学部・大学院に至るまで一貫した数理・データサイエンス教育とスマートラーニングによる全国・海外展開を含めた「千葉大学モデル」の構築	本学の教育研究成果及び拠点大学等の取組を活用し、高大連携・学部・大学院に至るまで一貫した数理・データサイエンス教育を確立するとともに、スマートラーニングのプラットフォームを活用した全国・海外展開を含めた「千葉大学モデル」を構築する。	R1-R3	45,000		15,000	15,000	15,000			
29	アカデミック・リンク・センター	教育・学修支援専門職を養成する実践的SDプログラムの開発・運営	「大学教育の質的転換」を推進するため、教育・学修を支援する新たな専門職の能力ルーブリックを開発し、全国の大学職員を対象とした実践的SDプログラムを実施して職員の高高度化を図るとともに、教育・学修支援活動の情報拠点としてネットワークを形成する。	R4-R8	19,500	19,500						
30	環境リモートセンシング研究センター	衛星リモートセンシングビッグデータを核とした診断型地球環境研究の推進と新展開－新世代気象衛星データ等の地球環境問題・防災への活用	リモートセンシングによる環境研究の発展とその社会貢献のため、新型気象衛星ひまわり8号をはじめ種々の衛星データや本拠点の設備を利用し、温室効果ガスゼロエミッション、線状降水帯をはじめとする気象災害など人類が直面する喫緊の課題に関する共同利用・共同研究を推進する。	R4-R9	14,007	14,007						
31	真菌医学研究センター	難治性感染症克服のための感染症・免疫研究推進拠点事業	社会構造変化に伴い問題になっている病原真菌などによる難治性感染症について、病原体基盤研究、宿主免疫研究、感染症臨床研究、異分野連携研究を国内外の研究機関との共同研究として実施することで、難治性感染症の克服を目指す感染症研究拠点を形成する。	R4-R9	14,007	14,007						

第1部第9章

(単位：千円)

番号	部局等名	事業名	事業概要	事業期間	計								
					R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	30年度	29年度	28年度		
32	医学部附属病院	「未来粘膜ワクチン研究開発センター」－ウィズコロナ・ポストコロナに向けたグローバル環境における未来型粘膜ワクチン研究開発拠点－	持続可能性社会構築に貢献できる環境とヒトに優しい未来粘膜ワクチンの基礎開発研究から臨床開発と治験実施体制の整備による日米粘膜ワクチン同時開発研究・治験・臨床試験実施の拠点となる6部門で構成される「未来粘膜ワクチン研究開発センター」を基礎・応用研究からシームレスに臨床研究に導くことが可能な臨床研究中核病院である医学部附属病院に設置整備するものである。	R4-R8	68,781	68,781							
33	災害治療学研究所	災害レジリエントな社会実現に向けた共創的研究教育クラスター拠点創成と機能拡張－災害治療学共創的研究部門の新設－	「千葉大学災害治療学研究所」のミッションとして、医学、薬学、看護学、園芸学、社会学や情報工学などの多様な研究基盤と実績を活かしながら、多様な災害に伴う健康被害と社会的弊害に対応できる最先端集約型治療学の共創的研究教育拠点の創成と人材育成を推進するものである。	R4-R8	70,350	70,350							
34	高等教育センター	高等教育センターの設置による学修者本位の教育の推進とイノベーション人材育成	高等教育センターを設置し、データ解析に基づくエビデンスベースドの教育改革方針を策定し、教育IRの活用により、学生のニーズと本学の強み・特色を生かした特徴的な「多様で柔軟なプログラム」を創発することで、新たな価値を創造し、社会にインパクトを与える革新的なイノベーション人材を育成する。	R4-R8	52,062	52,062							
35	ハドロン宇宙国際研究センター	ハドロン宇宙国際研究センターの整備・拡充－マルチメッセンジャー天文学研究拠点の形成－	これまで国際基礎科学プロジェクトであるIceCubeプロジェクトにおける代表的な成果を挙げた、高エネルギーニュートリノ天文学分野を代表する研究グループを擁しているハドロン宇宙国際研究センターの体制を整備・拡充し、2023年度から観測を開始するIceCubeプロジェクトのアップグレード計画やその後のIceCube-Gen2プロジェクトに恒常的に参加し実績を挙げる体制を整備する。	R4-R8	70,350	70,350							
合 計					5,653,128	317,090	770,400	850,013	936,041	1,022,768	751,703	1,005,113	

第3項 財産状況の推移

(1) 不動産の推移

千葉大学が総合大学として発足した当時の各部局の主な施設は、表1-9-5-5のとおり7地区に散在し教育・研究施設としては不完全なものであったが、1963年度に、千葉市西千葉地区が東京大学から所属替により取得され、1962年度から1966年度にわたり統合整備が図られた。その後、1977年に習志野地区を使用していた生物活性研究所が千葉市亥鼻地区に移転し、各部局は、西千葉地区、亥鼻地区、松戸地区の3地区に集約統合された。

表1-9-5-5 千葉大学発足直後の主な地区別明細

地区名	住所(当時)	部局等
矢作・亥鼻地区	千葉市矢作町785	事務局、医学部
	千葉市亥鼻町313	医学部附属病院、薬学部
市場町地区	千葉市市場町26	学芸学部(改組により1950.4から教育学部)
小仲台地区	千葉市小中台町824	学生部、附属図書館、文理学部(学芸学部の改組により1950.4から使用開始)
四街道地区	千葉県印旛郡千代田町四街道	学芸学部分校(改組により1950.4から教育学部分校)
岩瀬地区	松戸市岩瀬351	工芸学部(改組により1951.4から工学部)
戸定地区	松戸市戸定648	園芸学部
習志野地区	千葉県千葉郡津田沼町大久保	腐敗研究所(改組により1973.9から生物活性研究所)、附属病院分院、医学部学生寮

その後の本学所有の土地、建物等の国有財産の移動状況は、表1-9-5-6のとおりである。

表1-9-5-6 土地、建物等の不動産の移動状況

区分	1950年度末現在		1996年度末現在		2004年度末現在		2021年度末現在	
	数量	価格(円)	数量	価格(円)	数量	価格(円)	数量	価格(円)
土地 (㎡)	576,359	7,436,212	1,342,711	66,036,937,711	1,281,603	137,632,277,047	1,172,417	126,237,157,234
建物 (㎡)	101,220	26,788,718	416,801	29,283,775,386	475,339	32,318,659,784	608,997	73,947,205,478
構築物		7,664,598		13,040,195,338		18,824,516,740		5,010,282,636
合計		41,889,528		108,360,908,435		188,775,453,571		205,194,645,348

また、この75年間の土地、建物の増加率は、それぞれ2.1倍、6.1倍となっており、千葉大学が着実に発展してきたことを示している。

なお、発足時からの土地の取得および処分を見ると、表1-9-5-7a・表1-9-5-7bのとおりである。

表1-9-5-7a 土地の取得

取得年月日	名称	所在地	面積(㎡)	摘要
1950.03.31	園芸学部附属暖地農場	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本	13,567	購入
1951.12.21	医学部気候医学研究室	山梨県南都留郡山中湖村山中	22,730	寄附
1953.06.03	園芸学部附属暖地農場	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本	3,316	購入
1957.08.07	轟町公務員宿舍	千葉県稲毛区轟町3の7の15	1,829	大蔵省から所管換
1958.10.30	園芸学部附属暖地農場	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本	48,363	交換
1963.03.10	弥生町地区	千葉市稲毛区弥生町1の33	390,922	東京大学から所属換
1963.10.30	留学生寄宿舎	千葉市稲毛区小中台町824	110,686	大蔵省から所管換
1965.03.10	習志野地区	習志野市泉町3の76の30	23,233	大蔵省から所管換
1965.06.01	園芸学部附属樹木実験地	松戸市小金字大谷字1412の9	3,361	寄附
1966.03.22	園芸学部附属高冷地農場	群馬県沼田市下川田字大竹	71,451	農林省から所管換
1966.03.30	男・女学生寄宿舎	千葉市稲毛区小中台町824	19,160	大蔵省から所管換
1967.05.01	園芸学部附属農場	松戸市松戸648	23,031	大蔵省から所管換
1968.03.19	薬学部附属薬用資源教育研究センター館山圃場	館山市山本字上州垂	8,039	購入
1969.07.01	教育学部臨海実習所	館山市大賀字西台	6,518	大蔵省から所管換
1969.08.20	園芸学部附属農場	松戸市松戸648	1,110	大蔵省から所管換
1970.01.31	小中台東・西・南公務員宿舍	千葉市稲毛区小中台町824	14,111	大蔵省から所管換
1970.01.31	小中台北公務員宿舍	千葉市稲毛区小中台町877	5,685	大蔵省から所管換
1970.03.30	園芸学部附属薬用資源教育研究センター館山圃場	館山市山本字上州垂	574	購入
1972.09.22	園芸学部附属農場	松戸市松戸648	1,621	大蔵省から所管換
1973.03.31	園芸学部附属農場	松戸市松戸648	2,005	購入
1976.03.31	江戸川艇庫	松戸市栄町字西5の1310	543	購入
1976.09.03	園芸学部附属農場	松戸市松戸648	606	寄附
1980.05.15	教育学部附属養護学校	千葉市稲毛区長沼原町312	18,996	購入
1980.12.01	青葉町公務員宿舍	千葉市中央区青葉町359の4	612	農林水産省から所管換
1985.03.31	理学部附属海洋生物環境解析施設小湊実験場	安房郡天津小湊町内浦	57,190	東京水産大学から所管換
1993.03.31	園芸学部附属農場	柏市柏の葉6の2の1	249,889	大蔵省から所管換
2022.09.28	東京大学生産技術研究所跡地	千葉市稲毛区弥生町1の33	30,859	東京大学と交換

表1-9-5-7b 土地の処分

取得年月日	名 称	所 在 地	面積 (㎡)	摘 要
1958.10.30	園芸学部附属暖地農場	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本	16,883	交換
1965.09.30	教育学部	千葉市中央区市場町26	23,626	千葉県へ譲与
1965.10.15	工学部	松戸市岩瀬351	62,766	大蔵省へ引継
1967.02.28	工学部	松戸市岩瀬351	8,433	松戸市へ売払
1967.02.28	工学部	松戸市岩瀬351	18,338	学校法人聖徳学園へ売払
1967.03.31	教育学部	千葉市中央区市場町26	16,016	千葉県へ譲与
1990.02.06	習志野地区	習志野市泉町3の76の30	33,291	大蔵省へ所管換
1993.03.31	園芸学部附属農場	松戸市松戸648	52,215	大蔵省へ所管換
1995.11.26	園芸学部附属樹木実験地	松戸市小金字大谷1412の9	2,088	東京芸術大学へ所属換
2015.03.10	松戸地区	松戸市松戸648	1,694	国土交通省へ売払
2020.01.31	亥鼻地区	千葉市中央区亥鼻1の8の1	3,782	千葉市へ売払
2020.11.26	青葉町宿舍	千葉市中央区青葉町359の4	83	千葉市へ売払
2021.01.22	青葉町宿舍	千葉市中央区青葉町359の4	528	東急リパブル株式会社へ売払
2021.01.22	轟町宿舍	千葉市稲毛区轟町3の7の15	1,829	東急リパブル株式会社へ売払
2021.01.22	薬学部附属薬用資源教育研究センター館山圃場	館山市山本字上洲垂1674の1	8,555	東急リパブル株式会社へ売払
2021.01.22	薬学部附属薬用資源教育研究センター館山圃場	館山市山本字上洲垂1676	13	東急リパブル株式会社へ売払
2021.01.22	健康環境フィールド科学センター(熱川地区)	静岡県加茂郡東伊豆町奈良本字角の山1462の1	48,661	東急リパブル株式会社へ売払
2021.03.26	小仲台東宿舍	千葉市稲毛区小仲台5の6	8,090	三信住建株式会社へ売払
2021.03.26	小仲台南宿舍	千葉市稲毛区小仲台5の9	3,079	三信住建株式会社へ売払
2021.03.26	小仲台西宿舍	千葉市稲毛区小仲台5の4	2,981	三信住建株式会社へ売払
2021.03.26	小仲台北宿舍	千葉市稲毛区小仲台9の21	5,685	三信住建株式会社へ売払
2021.03.26	小仲台北宿舍(急傾斜地)	千葉市稲毛区小仲台9の21	2,238	三信住建株式会社へ売払
2021.03.26	小仲台女子学生寄宿舎	千葉市稲毛区小仲台5の7	7,060	三信住建株式会社へ売払
2022.09.28	西千葉地区	千葉市稲毛区弥生町1の33	8,381	東京大学と交換

(2) 不動産の有効活用

土地の貸付けが可能となるのは、国立大学法人法に規定される業務の範囲に伴う場合又はPFI (Private Finance Initiative) で施設整備を行う場合のみであった。しかし、2016年5月に国立大学法人法が改正され、同法第22条第1項に規定する業務の遂行に支障のない範囲でその対価を当該国立大学法人の教育研究水準の一層の向上を図るために必要な費用に充てるため、文部科学大臣の認可を受けて、当該業務のために現に使用されておらず、かつ、当面これらのために使用されることが予定されていない土地等を第三者へ貸し付けることが可能となった。

これを受け、本学は、土地等の有効活用として、2020年5月に経営協議会の議を経て、役員会において、柏の葉キャンパスの一部(約48,000㎡)を、日本進出先として柏市を候補地と検討していた英国ラグビー校に対し定期借地することを決定し、同年6月に国立大学法人法第34条の2に基づき、文部科学大臣宛に土地の貸付について申請し、同年9月に文部科学大臣の認可を受けた。

2021年7月30日に、Rugby School International Limited（以下「RSIL」という。）、Clarence Education Asia Limited、CEAMS 合同会社（以下「CEAMS」という。）及び本学との間で、Rugby School Japanの設立と運営に関する基本的事項について定めた基本合意書（Memorandum of Understanding）を締結した。

2022年1月31日には、RSIL、CEAMS、一般財団法人Rugby School Japan設立準備財団、三井不動産株式会社及び本学との間で、基本合意書に基づくものとして、関係者相互の連携・協力に向けた基本的枠組みについて定めた基本協定書を締結した。

本事業により、長期に亘り安定的な収入が確保されることから、本学の教育研究水準の一層の向上を図ることが可能となると考えられる。

(3) 物品の推移

物品の管理については、1957年度より物品管理法（昭和31年法律113号）により管理してきたが、法人化後、国立大学法人会計基準に基づき管理することとなった。

法人化後は、各国立大学にて定めた会計規定を基に固定資産として管理しており、1点50万円以上かつ耐用年数が1年以上の物品を資産として取り扱っている。

2021年度の器具備品においては、2004年度に国から承継を受けた資産に比べ、約8.6倍に増加しており、無形固定資産についても約11.2倍と大きく増加している。

表1-9-5-8 物品（固定資産）の推移（法人化以前は省略）

年度	器具備品	美術品・収蔵品	ソフトウェア	特許権
	金額（円）	金額（円）	金額（円）	金額（円）
2004	6,263,013,776	118,306,288	159,056,871	3,978,038
2005	7,738,174,323	123,426,288	183,203,931	3,978,038
2006	9,978,842,107	123,426,288	192,701,811	3,978,038
2007	11,527,253,854	123,426,232	237,812,121	3,978,038
2008	15,560,404,229	124,426,232	245,839,371	3,978,038
2009	20,070,607,145	124,426,232	316,688,457	6,909,849
2010	24,739,794,640	124,316,208	231,126,051	7,848,129
2011	30,134,515,210	124,316,208	244,960,851	23,037,866
2012	32,555,636,522	130,466,208	262,172,851	35,990,684
2013	36,105,855,147	130,466,132	328,841,782	65,520,754
2014	39,966,188,127	130,216,117	360,455,065	75,915,938
2015	40,590,338,802	130,063,117	535,383,594	110,831,169
2016	43,366,194,898	131,063,117	547,934,274	160,471,407
2017	40,688,369,093	131,063,117	567,297,594	187,418,066
2018	41,827,160,810	131,063,118	576,011,034	220,979,533
2019	43,173,364,370	131,063,118	694,930,274	251,212,453
2020	50,135,672,321	131,063,118	1,288,065,423	263,188,658
2021	53,729,183,953	130,931,092	1,541,122,183	287,196,490

(4) 業務上の余裕金の運用の推移

千葉大学での業務上の余裕金の運用については、2004年度の法人化以降、国立大学法人法第35条において準用する独立行政法人通則法第47条の規定に基づき、安全性・安定性を確保した上で、業務上の余裕金の運用を行うこととした。このため、取得した有価証券は満期保有有価証券として償還時期が来るまでそのまま保有することにより、毎年度の取得した有価証券の長期運用による収益額には大きな増減は生じていない一方、大口定期預金や譲渡性預金といった短期運用によっても財務収益を計上していた。

これにより、第1期中期目標期間（2004～2009年度）では、高い利率で運用できたことで多額の収益を計上できたが、その後、金利の低下に伴い、短期運用による財務収益額は激減していた。

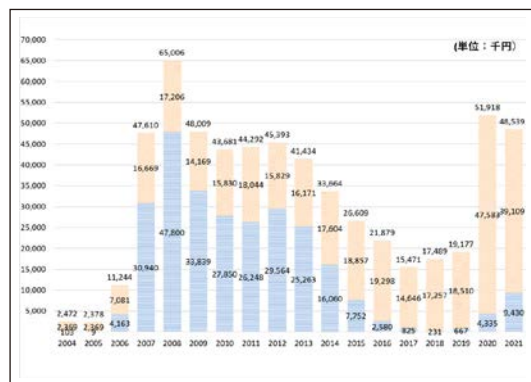
2016年5月に国立大学法人法が改正され、文部科学大臣の認定を受ければ、寄附金等を原資とする業務上の余裕金の運用を、より収益性の高い金融商品にも拡大されたことから、2019年7月に「第2」認定区分を取得し、寄附金等の外部資金の受入拡大を積極的に推進していくとともに、その原資を有効活用し、余裕金の運用拡大に取り組むこととした。

具体的には、業務上の余裕金の運用額を増加させる一方、市場動向について証券会社等から情報収集を行い、無担保社債等の購入を開始したほか、条件の良い債券への買い替えを行うことで自己収入の確保に努めているところである。

2020年度は、資金運用方針に則り、新たに第2区分認定後に購入可能となった商品を中心に運用を行った結果、前年度（2019年度）運用益19,177千円を大きく上回る51,918千円を獲得した。

また、2021年度は運用益48,539千円を獲得した。

表1-9-5-9 資金運用実績の推移



■長期（期間が1年を超える商品による運用収益額）
 ■短期（期間が1年以下の商品による運用収益額（普通預金利息を含む））

第4項 土地・建物の変遷

『千葉大学五十年史』以降の主な建物の新営、改修等の状況を時系列で示す。

1999年度、理学部新1号館（現在の理学部3号館）が竣工。また、電子光情報基盤技術研究センターの設置に伴いベンチャービジネスラボラトリー棟が新営された。

2000年度、創立50周年を記念した「かたらいの森」が竣工。また、社会文化科学系総合研究棟（現在の人文社会科学系総合研究棟）が竣工。さらに、全国初の試みである大学ミニ科学館「サイエンスプロムナード」を設置した理学系総合研究棟（現在の理学部2号館）が完成した。

2001年度、工学系総合研究棟1が竣工。亥鼻キャンパスでは大学院看護学研究科の現職看護管理者修士課程新設に伴う総合研究棟改修が完成した。

2002年度、自然科学系総合研究棟2が竣工。また、創造工学センターが新営。柏の葉キャンパスでは環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センター設置に伴い管理研究棟・実験棟・講義棟が完成。さらに、気候医学研究室を取り壊し山中寮が新築完成した。

2003年度、薬学部の亥鼻移転に伴う医薬系総合研究棟（第1期工事）が完成。西千葉キャンパスでは理学系総合研究棟（理学部1号館）の改修が行われた。

法人化後の2005年度、やよい保育園開設に伴うゲストハウス改修工事が完成。

2007年度、医学部附属病院の新病棟（ひがし棟）が完成し、2008年5月に開院。

2009年度、医学部附属病院の病棟（みなみ棟）改修が行われた。

2010年度、同じく医学部附属病院の病棟（にし棟）改修が行われ、また、看護師宿舎2棟が完成した。

2011年度、医薬系総合研究棟（第2期工事）が完成し、薬学部が亥鼻キャンパスへ全面移転した。また、西千葉キャンパスではアカデミック・リンク・センター設置に伴う図書館改修・新営工事が完成した。

2012年度、西千葉キャンパスの総合学生支援センター改修工事が完成。

2013年度、亥鼻キャンパスで、ゐのはな同窓会館の新営および医学部記念講堂の改修が行われた。

2014年度、医学部附属病院の新外来診療棟が完成し7月に開院。西千葉キャンパスでは、工学系総合研究棟2および熱エネルギー変換グリーンイノベーション施設（次世代モビリティパワーソース研究センター）が完成。また、旧薬学部1号館を改

修して学際研究棟が完成した。

2016年度、小仲台地区の学生寄宿舍（薫風寮）が完成。

2018年度、文部科学省「地域科学技術実証拠点整備事業」で採択された千葉ヨウ素資源イノベーションセンター設置に伴う増築が完成。

2019年度、アカデミック・リンク松戸竣工。

2020年度、医学部附属病院の新中央診療棟が完成し、2021年1月に開院。

2021年度、医学系総合研究棟（治療学研究棟）が完成。西千葉キャンパスでは学術研究・イノベーション推進機構（IMO）の設置に伴うベンチャービジネスラボラトリー棟の改修（IMO棟1、IMO棟2）が完成した。

2022年度、亥鼻キャンパスに災害治療学研究所が完成した。

なお、1998年5月現在および2023年5月現在における千葉大学の土地・建物は、それぞれ表1-9-5-10および表1-9-5-11のとおりである。

表1-9-5-10 千葉大学の土地・建物（1998年5月）

地区名	区分	施設名	所在地	土地㎡	建物（総面積）㎡			備考
					鉄筋鉄骨	木造	計	
西 千 葉 地 区	本 部	事務局庁舎	千葉市稲毛区弥生町1番33号	381.432	3,809		24,538	※内訳 第1体育館 2,625 第2体育館 991 学生会館 2,591 厚生施設（食堂） 2,112 学生食堂 1,119 サークル会館 2,409 武道場 984 宿泊施設 455 けやき会館 2,536 その他 3,450 ※※内訳 附属小学校 8,180 附属中学校 8,103 附属幼稚園 1,418
		共通棟			1,457			
		その他			※19,272			
	共同研究センター				2,543	2,543		
	アイソトープ総合センター				2,680	2,680		
	総合情報処理センター				1,602	1,602		
	留学生センター				1,532	1,532		
	共同研究推進センター				1,132	1,132		
	環境リモートセンシング研究センター				2,719	2,719		
	保健管理センター				796	796		
	有害廃棄物処理施設				468	468		
	附属図書館				9,671	9,671		
	文学部・法経学部				12,665	12,665		
	教育学部	学 部			22,308	40,009		
	理学部	附属学校			※※17,701			
	薬学部				16,858	16,858		
工学部		11,141	11,141					
総合校舎		46,531	46,531					
大学院自然科学研究科		22,940	22,940					
		6,189	6,189					

第1部第9章

地区名	区分	施設名	所在地	土地㎡	建物(総面積)㎡			備考	
					鉄筋鉄骨	木造	計		
亥鼻地区	真菌医学研究センター		千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号	262,149 (他に借入61)	3,458		3,458	※医学部所属 ※※医学部附属病院所属 ※※※内訳 看護婦宿舍 4,521 亥鼻宿舍 1,898	
	医学部				45,566	697	46,263		
	医学部附属病院				68,722		68,722		
	看護学部				17,484		17,484		
	亥鼻分館				3,784		3,784		
	学生寄宿舎	雄翔寮				※1,094			1,094
	職員宿舎	さつき寮				※※2,630			2,630
松戸地区	園芸学部	学 部	松戸市松戸648	148,760	21,472	1,312	22,784	※園芸学部所属	
	附属農場								
	学生寄宿舎	浩気寮				※2,019			2,019
	職員宿舎				1,142	1,338	1,338		
学生部	江戸川艇庫	松戸市栄町西5丁目	543 (他に借入19)	195		195			
小仲台地区	学生寄宿舎	稲毛寮	千葉市稲毛区小仲台6丁目33番	11,145	3,439		3,439		
		無名寮			1,800		1,800		
		睦寮	千葉市稲毛区小仲台5丁目7番	7,060	1,915		1,915		
	職員宿舎	国際交流会館	千葉市稲毛区小仲台6丁目33番	11,068	7,463		7,463		
その他の	教育学部	附属養護学校	千葉市稲毛区長沼原町312	18,996 (他に借入1)	3,558		3,558		
		臨海実習所	館山市大賀字西台地	6,518 (他に借入33)	649		649		
	理学部	附属海洋生態系研究センター銚子実験場	銚子市外川町1丁目10835番6号	(他に借入607)	191 (他に借入142)		191 (他に借入142)		
		附属海洋生態系研究センター小湊実験場	千葉県安房郡天津小湊町内浦1の1	(他に借入93)	57,190 1,468	85	1,553		
	医学部	臨海実習所	千葉県安房郡鋸南町勝山398の1	1,512		396	396		
		気候医学研究室	山梨県南都留郡山中湖村山中235の15	22,730		311	311		
	薬学部	附属薬用資源教育研究センター館山園場	館山市山本字上洲垂1674の1	8,555	153		153		
	園芸学部	柏農場	柏市柏の葉6丁目2番地1	249,889	5,356		5,356		
		高冷地農場	群馬県沼田市下川田町字大竹5773	71,358 (借入338)	868		868		
		暖地農場	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本字角の山1462の1	48,363 (他に借入319)	1,908		1,908		
	職員宿舎		千葉市稲毛区轟町ほか	2,441	2,549		2,549		
	賃貸			4,302					
	その他			(借入71)	※9		9	※医学部納骨堂	
合 計				1,334,948 (他に借入1,542)	418,965 (他に借入142)	2,801	421,766 (他に借入142)		

『千葉大学概要』(1998)より

表1-9-5-11 千葉大学の土地・建物（2023年5月）

地区名	区分	施設名	所在地	土地㎡	建物(総面積)㎡	備考	
西千葉地区	本部	事務局庁舎			3,809		
		共通棟			1,457		
		その他			※29,269	※内訳	
		共用機器センター			2,543	・第1体育館	2,625
		情報戦略機構			1,602	・第2体育館	991
		フロンティア医工学センター			2,307	・大学会館	2,675
		アイソトープ実験施設			2,680	・総合学生支援センター	2,112
		学術研究・イノベーション推進機構			2,726	・学生食堂	1,119
		環境リモートセンシング研究センター			3,803	・サークル会館	2,409
		総合安全衛生管理機構	千葉市稲毛区弥生町1番33号	403,436	1,254	・武道場	984
		附属図書館			16,037	・けやき会館	2,536
		文学部・法政経学部			16,904	・その他	13,818
		教育学部	学部		21,953		
			附属学校		※※19,731	※※内訳	
		理学部			21,942	・附属幼稚園	1,418
		工学部			59,446	・附属小学校	8,199
		総合校舎			22,948	・附属中学校	10,114
	亥鼻地区		自然科学系総合研究棟			17,883	
			ソフト分子活性化研究センター			1,523	
		真菌医学研究センター			3,466		
		医学部			86,410		
		医学部附属病院			150,545		
		看護学部			17,492		
		亥鼻分館	千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号	263,687	3,784		
		薬学部		(他に借入83)	20,317		
		災害治療学研究所			697		
		学生寄宿舎	雄翔寮		※1,094	※医学部所属	
		さつき共同棟			※※2,662	※※医学部附属病院所属	
	職員宿舎			※※※10,018	※※※内訳		
			(他に借入1,183)	・看護師宿舎	10,018		
松戸地区		園芸学部		147,255	23,204		
		学生寄宿舎	浩気寮 松戸市松戸648		※2,019	※園芸学部所属	
		職員宿舎		1,142	1,338		
小仲台地区		学務部	江戸川艇庫 松戸市栄町西5丁目	543	195		
				(他に借入19)			
その他			薫風寮 千葉市稲毛区小仲台6丁目33番	11,212	4,098		
		学生寄宿舎	国際交流会館 千葉市稲毛区小仲台6丁目33番	11,420	7,463		
		墨田キャンパス	東京都墨田区文花1丁目19番1号	(借入3,201)	(借入9,447)		
			鴨川市内浦1の1	57,190	1,468		
			(他に借入92)				
		海洋バイオシステム研究センター	銚子実験場 銚子市外川町1丁目10835番6号	(借入607)	191		
				(他に借入142)			
		教育学部	附属特別支援学校 千葉市稲毛区長沼原町312	18,996	3,558		
			(他に借入1)				
			臨海実習所 館山市大賀字西台地	6,228	649		
		(他に借入32)					
	医学部	勝山セミナーハウス 安房郡鋸南町勝山398の1	1,512	47			
	学務部	山中寮 山梨県南都留郡山中湖村山中235の15	22,730	467			
		柏の葉地区 柏市柏の葉6丁目2番地1	166,889	6,566			
		(他に借入175)					
	環境健康フィールド科学センター	沼田地区 群馬県沼田市下川田町字大竹5773	71,358	868			
		(他に借入338)					
	職員宿舎	習志野市谷津	11,203	7,196			
	貸付			94			
	その他		(借入12,405)	※39	※うち9㎡ 医学部納骨堂		
			(他に借入128)	605,668	うち30㎡ マビドン大学附属施設		
			(他に借入16,953)	(他に借入10,900)			

『千葉大学概要 DATA SUMMARY』(2023)より

第5項 大学における施設・設備の拡充整備状況

1998年度～2023年度の施設・設備の拡充整備状況の詳細は、表1-9-5-12のとおりである。

表1-9-5-12 施設・設備の拡充整備状況

年度	建物等名称	構造・階	面積(m ²)	備考
1998	理学部校舎	鉄筋コンクリート造7階建	5,050	1999年度完成
	ベンチャービジネスラボラトリー棟新営 (病院) 基幹・環境整備 (病棟改修)	鉄筋コンクリート造3階建	1,508	1999年度完成
	(病院) 基幹・環境整備 (特別高圧受変電設備改修)			
	真菌医学研究センター改修			
	医療情報ネットワーク整備			
	太陽光発電設備			
	附属中学校管理棟	鉄筋コンクリート造3階建	1,587	1999年度完成
	附属中学校体育館 (西千葉) 基幹・環境整備 (ガス・ボイラー改修)	鉄筋コンクリート造2階建	2,875	1999年度完成
(病院) 基幹・環境整備 (母子棟・精神神経科棟改修)				
1999	文学部・法経学部等総合研究棟 (社会文化科学系総合研究棟)	鉄筋コンクリート造5階建	4,239	2000年度完成
	附属中学校 基幹整備 (プール、屋外運動場等)			
	理学部総合研究棟 (サイエンスプロムナード)	鉄骨鉄筋コンクリート造7階建	5,480	2000年度完成
2000	自然科学系総合研究棟2 (病院) 基幹整備 (ボイラー設備改修その他)	鉄骨鉄筋コンクリート造10階建	11,358	2002年度完成
	医学部附属病院 (中央診療A棟手術室改修)			
	工学系総合研究棟1 キャンパス情報 ネットワークシステム	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建	8,992	2001年度完成
	医学部法医解剖棟改修 機械設備その他工事			
2001	(亥鼻) 総合研究棟改修 (Ⅰ期)			
	(亥鼻) 研究棟新営			
	医薬系総合研究棟Ⅰ新営	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上10階建	11,353	2003年度完成
	工学部17号棟等改修			
	環境リモートセンシング 研究棟等改修			
	(亥鼻) 総合研究棟改修 (Ⅱ期)			
	(松戸) 総合研究棟改修			
(松戸) 研究温室取設	鉄骨造平屋建	769		
創造工学センター新営	鉄筋コンクリート造3階建	1,598	2002年度完成	

第1部第9章

年度	建物等名称	構造・階	面積(m ²)	備考
2002	理学系総合研究棟改修 (理学部1号館) (病院) 基幹・環境整備 (柏) 管理研究棟等新営 (柏) 実習温室移築	鉄筋コンクリート造3階建 鉄筋コンクリート造2階建 鉄筋コンクリート造平屋建	1,274 402 219	2003年度完成
2003	(柏) 農場運営中央棟等移築 安全衛生管理対策			
2004	医学部附属病院病棟(ひがし棟) (柏) 研究棟改修 附属小学校校舎改修 災害復旧事業	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上11階建	20,766	2007年度完成 2005年度完成
2005	(病院) 基幹・環境整備 (外来診療棟等) アスベスト対策事業 総合校舎改修(A号館) 理学系総合研究棟改修 (理学部4号館)			2006年度完成 2006年度完成
2006	(病院) 基幹・環境整備 (中央診療A・D棟)			
2007	(西千葉) 耐震対策事業 (病院) 基幹・環境整備 (病院) 基幹・環境整備 (耐震改修等)			
2008	医学部附属病院病棟(みなみ棟) 母子センター棟改修 医学部附属病院 看護師宿舎 (西千葉) 耐震対策事業Ⅰ (西千葉) 耐震対策事業Ⅱ	鉄筋コンクリート造5階建 鉄筋コンクリート造5階建	3,182 2,316	2009年度完成 2010年度完成 2010年度完成
2009	(亥鼻) 先端研究施設新営 (医薬系総合研究棟Ⅱ) 医学部附属病院病棟(にし棟) 母子センター棟改修 医学部附属病院 基幹・環境整備 (電気設備改修等)	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上7階建	7,890	2011年度完成 2010年度完成
2010	総合研究棟改修(総合校舎E号館) 地域産学官共同研究拠点 (サイエンスパークセンター) (病院) 基幹・環境整備 (電気設備更新) (柏の葉) 植物工場 実証・展示・研究事業 (松戸) (柏の葉) 先進的植物工場施設整備費 補助金事業 附属図書館改修 (アカデミック・リンク・センター)	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上4階建	6,367	2011年度完成

第1部第9章

年度	建物等名称	構造・階	面積(m ²)	備考
2015	研究者交流施設改修(松韻会館) (インフォメーションセンター) 講堂耐震改修(けやき会館)			
2016	総合校舎8号棟改修 (国際教養学部棟) (西千葉)基幹・環境整備 (給水設備) (病院)支障建物撤去等 (にし棟・中央診療A棟改修、 外来ホール棟とりこわし) (病院)エネルギーセンター増築 医学部附属病院 救急外来棟新営 医学部附属病院 保育園改修	鉄骨造平屋建	425	2017年度完成
2017	医学部附属病院 にし棟等改修 千葉ヨウ素資源 イノベーションセンター 附属図書館松戸分館 医学部附属病院 中央診療棟 医学系総合研究棟 (PFI事業) (治療学研究棟)	鉄筋コンクリート造4階建 鉄筋コンクリート造4階建 鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上8階建 鉄骨鉄筋コンクリート造平屋建 鉄骨鉄筋コンクリート造 地上11階建	1,523 2,117 31,547 992 40,827	2018年度完成 2019年度完成 2020年度完成 2020年度完成 2021年度完成
2018	(西千葉)ライフライン再生 (給水設備) 長沼原団地特別支援学校 校舎改修(I期)			2019年度完成 2019年度完成
2019	小仲台団地他 基幹・環境整備 (ブロック塀対策) 長沼原団地特別支援学校 改修(II期) (西千葉)ライフライン再生III (給排水設備) (西千葉)ライフライン再生 (ガス設備) 理学系総合研究棟改修 (亥鼻)基幹・環境整備 (屋外環境整備等) (亥鼻)ライフライン再生 (防災設備等) (西千葉他)災害復旧事業 小湊団地他 災害復旧事業			2020年度完成 2020年度完成 2020年度完成 2020年度完成 2020年度完成 2020年度完成 2020年度完成
2020	ベンチャービジネス ラボラトリー棟等改修 (学術研究・イノベーション推進機構) (松戸)緑のテラス整備 (西千葉)ライフライン再生IV (給排水設備) (西千葉)基幹・環境整備 (衛生対策等) (西千葉)長寿命化促進事業 (理学部3号館)			2021年度完成 2021年度完成 2021年度完成

第1部第9章

年度	建物等名称	構造・階	面積(m ²)	備考
2020	(亥鼻) ライフライン再生 (給排水設備) (亥鼻) 実験研究棟(医学系) (災害治療学研究所)	鉄骨造7階建	4,251	2021年度完成 2022年度完成
2021	(西千葉) 薬学部百周年記念館 (保育園) 改修 次世代モビリティパワーソース 研究センターII新営その他 (柏の葉) 管理棟等新営その他 (柏の葉) 仮移転整備 (墨田団地への仮移転含む) (松戸) ライフライン再生 (給水設備) (亥鼻) 基幹・環境整備 (急傾斜地安全対策)	鉄骨造平屋建	105	2022年度完成 2022年度完成 2022年度完成 2023年度完成 2022年度完成
2022	工学系講義棟新営工事 統合情報センター 非常用発電機 設置に伴う改修電気設備工事 看護・医薬系総合教育研究棟 長寿命化促進(屋上防水他) 医薬系総合研究棟I(空調更新) 医薬系総合研究棟I 動物実験施設改修 (亥鼻) 弓道場新営工事 (病院) 臨床試験部棟改修その他 (病院) 中庭環境整備 医学部附属病院 再開発事業 (にし棟、中央診療A・A2・ B・C・D、リニアック棟、 サイクロترون棟、 MRI-CT棟、臨床新棟) (松戸) 急傾斜地安全対策 (墨田) 校舎(漢方研究所)改修 (柏の葉) 基幹整備工事 (排水設備)		2,700	2024年度完成 2023年度完成 2023年度完成 2023年度完成
2023	工学部10号棟改修 (西千葉) 陸上グラウンド改修 (西千葉) 基幹整備工事 (電気設備更新) 医学部附属病院 中央診療A2棟 改修工事 (病院) 基幹整備工事 (昇降機設備) (柏の葉) バイオ・健康オープン イノベーション拠点施設整備 小湊団地 台風災害復旧工事			2024年度完成 2024年度完成